

令和 7 年度

「運営に関する計画」

大阪市立三稜中学校

令和 7 年 4 月

## 1 学校運営の中期目標

## 現状と課題

- 学校規律の徹底を図ることにより、学校生活における安心・安全を確保し、落ち着いた状況で日々の学習活動を行っている。不登校生徒については別室登校や関係機関とのつながりにより改善傾向があるものの今後も日常の家庭訪問や時間をかけたきめ細やかな対応が必要である。
- 特別支援学級在籍で学校になじめず不登校傾向にある配慮の必要な生徒もあり、個に応じた指導を充実させている。
- いじめ問題については、アンケートや教育相談の実施、タブレットパソコンを使った心の天気、相談機能などを活用し、早期発見、早期解決に取り組んでいる。安心して成長できる環境が整った状態を維持しつつ、いじめについては「いつでも、どの生徒にも、どの学校においても起こり得る」という認識のもと、学校体制の連携を強化して早期発見、早期解決に全力で取り組んでいく。
- 令和 5 年度より、職場体験を再開し、将来に向けて考える良い機会をつくることができた。校内調査において「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定的な回答は 4 ポイント増加している。今後も将来の夢、目標を持つ意義や、将来に向けての前向きな展望を考える機会を多くつくり、キャリア教育や進路学習を進めていく。
- 確かな学力の向上のために、タブレットパソコン（一人一台端末）を活用した教育活動の推進、授業改善を進めており、生徒の学習意欲の向上がみられる。今後も教職員の積極的な授業改革に対する意欲の高揚を図り、「わかる授業」を研究し実践に移していく。
- 令和 5 年度の中学生チャレンジテストの対府比平均を同一母集団で比較すると、3 教科・5 教科とも向上がみられる。しかし、校内調査における「まじめに授業に取り組んでいる」の肯定的な回答は、学年によって差があり、全体として令和 4 年度より 1 ポイント下がっている。授業改善を進めるとともに、学習意欲をさらに高める工夫が必要である。
- 英語科における授業実践に合わせて、令和 5 年度も英語検定の校内団体受検会場として 127 名が受検している。今後も、生徒に目標を持たせ、英語の 4 技能の向上を進めていく。
- 令和 5 年度の全国体力・運動能力・運動習慣等の調査結果については、体力合計点は、男女とも全国・大阪市平均を下回った。2 年生を対象としており、学年によって差が大きい。特に男子は 50 メートル走・立ち幅跳び、女子は、反復横跳び・立ち幅跳びが低い結果となっており、敏捷性に課題が残る。
- 教員の勤務時間に関する基準 1（時間外勤務が週 45 時間・年間 360 時間を超えない）を満たす教職員の割合は増えているが、今後も業務のスリム化、勤務時間を意識した働き方が必要である。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育環境の推進】

- 年度末の校内調査における「学校生活は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 90 %以上にする。 R4[87] R5[87] R6[92]
- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を、85 %以上にする。 R4[80] R5[77] R6[71]
- 毎年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を毎年、前年度より増加させる。
- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、70 %以上にする。 R4[57] R5[69] R6[73]

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度の調査の「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を 75 %以上にする。 R4[66] R5[72] R6[61]
- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の各教科の標準化得点(全国平均を 100 とする)を、令和 3 年度より向上させる。 R3[国 96・数 98] R4[国 97・数 101・理 100] R5[国 100・数 99・英 99]
- 令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点を、令和 3 年度より 5 ポイント向上させる。 R3 男[40.0] 女[48.3] R4 男[43.3] 女[49.9] R5 男[40.2] 女[45.5]
- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 90 %以上にする。 R4[90.5] [94.6] R5[91.0] [93.4] R6[90.8] [92.5]

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 7 年度末の全国学力・学習状況調査の「学習の中でコンピューターなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の項目について肯定的な回答を 95 %以上にする。 R3[79.1] R4[88.1] R5[92.2]
- 令和 7 年度には、ゆとりの日については、週 1 回以上設定する。  
学校閉校日については、夏季休業期間中は 3 日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては 1 日以上設定する
- 令和 7 年度の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、70 %以上にする。 R4[68] R5[65] R6[67]
- 令和 7 年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を増加させる。 R5[85] R6[89]

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 全市共通年度目標（中学校）

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。R4[77]R5[76]R6[80]
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

#### 学校園の年度目標

- ① 年度末の校内調査における「学校生活は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を87%以上にする。R4[87] R5[86]R6[92]
- ② 年度末の校内調査における「命や人権の大切さについて考える学習がある」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。R4[96] R5[96]R6[98]
- ③ 年度末の校内調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、67%以上にする。R4[63] R5[67] R6[73]

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 全市共通年度目標（中学校）

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を38%以上にする。R4[24] R5[38]R6[44]
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。
- 大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を67.5%以上にする。R4[60] R5[60]R6[67]
- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を64.5%以上にする。R4[55] R5[55]R6[64]

#### 学校園の年度目標

- ① 全国学力・学習状況調査の各教科の標準化得点(全国平均を100とする)を、昨年度より向上させる。
- ② 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点を、大阪市平均以上にする。
- ③ 年度末の校内調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して、食べていないと回答する生徒の割合を5%以下にする。R4[5] R5[5]R6[5]
- ④ 年度末の校内調査における「授業はわかりやすく楽しいですか」に対して、肯定的に回答する割合を85%以上にする。R4[83]R5[82]R6[87]

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通年度目標（中学校）

○授業日において、生徒の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日を除く] R5[0%]

○第2期「働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を43%以上にする。

基準1 1ヶ月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること  
年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること

学校園の年度目標

① 年度末の校内調査において、「図書室を利用したことがありますか」に対して、「ない」と回答する割合を22%以下にする。 R4[21] R5[20] R6[14]

② 年度末の校内調査において、「学校の様子をホームページ・通信等で情報公開をよく行っている」に対して、肯定的に回答する割合を95%以上にする。 R4[96] R5[96] R6[98]

3 本年度の自己評価結果の総括

## 大阪市立三稟中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【安全・安心な教育の推進】</b></p> <p><b>全市共通年度目標（中学校）</b></p> <p>○ 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 80 %以上にする。</p> <p>○ 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○ 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <p>① 年度末の校内調査における「学校生活は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 87 %以上にする。</p> <p>② 年度末の校内調査における「命や人権の大切さについて考える学習がある」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 90 %以上にする。</p> <p>③ 年度末の校内調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、 67 %以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p>いじめは、いつでも、どの生徒にも、どの学校においても起こり得るという認識のもと、早期発見、早期解決に取り組む。</p>	B [生指]
指標 いじめ調査を学期に 1 回以上実施し、組織的に解決に取り組む。	
<p><b>取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p>生徒の現状と課題に即した教育相談活動を充実する。</p>	B [生指]
指標 年間 2 回以上の教育相談週間を設けるとともに、タブレットパソコンの相談機能の活用や 1 日に 1 回以上、心の天気の活用を進める。	
<p><b>取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</b></p> <p>人権学習に計画的・系統的に取り組み、人権感覚の向上と互いに認め合う集団づくりに取り組む。</p>	B [人権]
指標 学校・学年の課題に即し、年間 4 分野以上の人権課題について実践を行う。	
<p><b>取組内容④【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</b></p> <p>3 年間を見通した計画的・系統的なキャリア教育に取り組み、学年ごとに子どものニーズに合わせ将来について考える教育に取り組む。</p>	B [進路]
指標 将来の生き方について考える学習があると肯定的に回答する割合を高める。	
<p><b>取組内容⑤【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</b></p> <p>感動する心や豊かな心を育む行事・取り組みを実施する。</p>	B [教務]など
指標 芸術鑑賞や体験学習、講演会をそれぞれ 1 回以上実施する。 人が困っているとき、進んで助けていると肯定的に回答する割合を高める。	
<p><b>取組内容⑥【基本的な方向 2 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p>大阪市部活動指針に基づき、運動部や文化部の活動を充実させる。</p>	B [生指]
指標 部活動に意欲を持って取り組み、「部活動が活発で楽しいですか」の肯定的回答の割合を高める。	

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

### 【年度目標】について

#### 全市共通年度目標（中学校）

○いじめはいつでも、どこでも、誰にでも起りうる。いじめを0にすることは困難である。ただ、重大事態は0にすることは可能である。いじめは早期発見し、即座に対応することが肝要である。

○中学生の不登校は増加している。不登校に対する、子ども・保護者の考え方の変化も要因の一つだ。学級担任・学年・生活指導部の連携により、不登校生徒・保護者に寄り添い、学習支援と生活支援を行う。

○生活指導支援員と連携し学習室（なぎさ）を開放している。使用できる時間帯は設定していない。子どもたちに負担を感じず気軽に利用できる。

#### 学校園の年度目標

- ① 学校における「楽しさ」はスマホゲームのような刹那的な楽しさではない。子どもたちが日々の教育活動をつうじて、生身の人間同士が学びあうことの「楽しさ」を目指す。
- ② 夏休みに平和登校日を設けた。戦争は悲惨な結果を生み、人々を不幸に陥れる。それでも世界に向けると戦争・紛争（ウクライナとロシア・イスラエルとハマスなど）が続いている。戦争と平和について、理想と現実を把握し、広い視野で多角的に考えさせる。
- ③ 子どもたちは無限の可能性を秘めている。学校は子どもたちに夢と希望を抱かせる場でありたい。子どもたちには夢を、努力をすれば実現可能な目標にしてほしい。そのためにも教員自身が子どもたちに夢を語る。

### 【取組み内容】について

- ① いじめ調査は定期的に実施できている。日々の生活指導においても、いじめにつながる事案は厳しく指導し、早期発見に務めている。
- ② 教育相談や心の天気を毎日活用することで、生徒の変化に対応している。特に気になる生徒は、保護者との連携も大切にしていきたい。
- ③ 各学年、年間指導計画に沿って実践を進めている。夏休みの平和登校日には矢野宏さんの講演を聴き、戦争について、平和について考える機会を持つことができた。また今年度の芸術鑑賞会の和太鼓演奏では演奏だけでなく人権についての話も聞くことができた。
- ④ 2年生で職場体験を実施し、3年生で外部講師を招いてSPトランプ（進路）を実施しました。2年生は色々な職業を体験することで、働くことの大切さやしんどさなど体験を通して将来の自分を考えるきっかけになった。3年生では進路への自己実現を叶えるためにプラス面とマイナス面を知り、進路に向けての対処法を学びました。
- ⑤ 夏休み中の平和登校日には平和学習として、講演会を実施した。芸術鑑賞会は、和太鼓の鑑賞と人権の講演会を実施した。各学年、校外学習等で体験学習を実施した。
- ⑥ 各部活動で複数顧問を配置し、生徒個々の状況に応じた指導をしている。

#### 今後への改善点

## (様式2)

## 大阪市立三稟中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通年度目標（中学校）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を38%以上にする。</li> <li>○ 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。</li> <li>○ 大阪市英語力調査C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合を67.5%以上にする。</li> <li>○ 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を64.5%以上にする。</li> </ul> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 全国学力・学習状況調査の各教科の標準化得点(全国平均を100とする)を、昨年度より向上させる。</li> <li>② 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点を大阪市平均以上を目指す。</li> <li>③ 年度末の校内調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して、食べていないと回答をする生徒の割合を5%以下にする。</li> <li>④ 年度末の校内調査における「授業はわかりやすく楽しいですか」に対して、肯定的に回答する割合を85%以上にする。</li> </ol>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</b> 各調査やテスト等の結果を分析し、学習サポーターの活用や、放課後・テスト前学習などの補充学習により、基礎・基本の定着に取り組む。</p> <p><b>指標</b> 全国学力・学習状況調査、大阪府チャレンジテストの平均無解答率を減少させる。</p>	B
<p><b>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</b> 体育の授業を中心に、筋力・巧緻性・瞬発力等を高める運動を実施する。</p> <p><b>指標</b> 全国体力・運動能力の各種目の平均値を向上させる。</p>	B
<p><b>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</b> 授業研究や相互授業参観などを実施し、教員の授業力向上に取り組む。</p> <p><b>指標</b> 全教員が研究授業を年間1回以上実施するとともに、1回以上授業を参観する。</p>	B
<p><b>取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</b> C-NET やデジタル教科書、デジタル教材の活用により、4技能すべての力の向上を図る。[英語]</p> <p><b>指標</b> 大阪市英語力調査(GTEC)におけるCEFR-Jの評価を4技能すべてA1レベル以上の英語力を有する中学3年生の割合を高める。</p>	B
<p><b>取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】</b> 「食育通信」や「保健だより」などを通し、食育を推進する。</p>	B

指標 毎月1回以上、「食育通信」や「保健だより」を発行し、特に朝食の必要性について生徒の意識を向上させる。	
取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】 生活アンケートを実施し、生徒の生活リズムなどの状況を把握する。	[健教]
指標 生活アンケートを年間1回以上実施し、結果を生徒・保護者へ周知する。	B

### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

#### 【年度目標】について

##### 全市共通年度目標（中学校）

○時代は加速度的に変化している。この時代を生きる子どもたちには、自分たちで問い合わせを立て、解決するための課題を仲間と連携しながら克服する力が必要だ。

○チャレンジテストの結果は判明していない。教員も意欲的工夫した授業を実践している。子どもたちには学ぶ姿勢が感じられる。結果が楽しみだ。

○世界は繋がっている。他国や外国人とコミュニケーション（対話）するには英語力は必要だ。英語科教員の授業の工夫やICT機器の活用により、英語4技能習得を推進している。

○メジャーリーグ大谷選手の活躍や東京世界陸上などスポーツの力が注目されている。体育授業を中心に運動とスポーツを愛好する姿勢を育んでいる。最近、世間一般で体育・スポーツ・運動を混同して使用されることが見受けられるなか、今年度「運動会」から「体育大会」と名称変更した。体力・運動能力向上にも大きな一歩だ。

##### 学校園の年度目標

- ① 国語は0.95→0.94に、数学は1.01→0.95
- ② 結果は出でていない。身体が心を支え、心が身体を支えている。したがって体力は必要だ。体育の授業を中心に、体育的活動を充実させて、体力・運動能力を育んでいく。
- ③ 成長期の中学生にとって昼食は重要だ。空腹では学習意欲や集中力も低下する。PTAなどと連携し、朝食を採ること（食育）を啓発推進する。

#### 【取組み内容】について

- ① 生徒一人一人の学びの課題がある。教員と各サポーターが連携して取り組んでいる。
- ②
- ③ 6月と11月に校内研究授業を実施する。また、若手教員を中心にスクールアドバイザーの指導を受け、授業改善に取り組んでいる。
- ④ C-NETやデジタル教科書、学習用端末を活用し、4技能の向上を意識した授業展開をしている。大阪市英語力調査(GTEC)が9月末現在未実施のため、達成はしていない。
- ⑤ 食育だよりや保健だよりは毎月発行し、食育についても免疫力アップの生活習慣のコーナーで取り上げ啓発している。
- ⑥ 生徒の現状は把握するための生活アンケートについては作成中です。

#### 今後への改善点

【目標設定】について

(様式 2)

大阪市立三稟中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通年度目標（中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業日において、生徒の 8 割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の 50 % 以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日を除く]</li> <li>○ 第 2 期「働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 43 % 以上にする。</li> </ul> <p>学校園の年度目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 年度末の校内調査において、「図書室を利用したことがありますか」に対して、「ない」と回答する割合を 22 % 以下にする。</li> <li>② 年度末の校内調査において、「学校の様子をホームページ・通信等で情報公開をよく行っている」に対して、肯定的に回答する割合を 95 % 以上にする。</li> </ol>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 6 教育デジタルトランスフォーメーション】</p> <p>ICT を活用した、主体的・対話的・深い学びにつながる授業研究に取り組む。 [ICT]</p> <p>指標 日々の学校生活で ICT 機器を活用できているという項目で肯定的な回答する割合を高める。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>業務の効率化や外部人材により教職員の業務軽減を図る。 [管理]</p> <p>指標 月に 1 回以上、勤務時間を点検し、時間外勤務を前年度以下にする。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向 8 生涯学習の支援】</p> <p>図書館を環境整備するとともに、定期的に本紹介のポスターや図書だよりを発行し、読書への興味を高める。 [教務]</p> <p>指標 図書室を利用したことがない生徒の割合を下げる。</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向 9 家庭・地域と連携・協力した教育の推進】</p> <p>HP の活用や学年・学級通信を定期的に発行し、学校の情報を積極的に発信する。 [管理]</p> <p>指標 ホームページの更新回数を前年度以上にする。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

## 【年度目標】について

### 全市共通年度目標（中学校）

- 昨年度より生徒会ICT委員会を発足させた。徐々に定着し、ICT活用の推進を行う。
- 今年度 月現在で基準1を満たす割合は39.53%である。業務改善による時間外勤務時間の減少を推進していく。

### 学校園の年度目標

- ① 学校と元気アップ・補助スタッフ・学校司書・生徒会図書委員が連携し、図書館を活用しやすい雰囲気を醸成させる。
- ② 日々の学校のようすを学校ホームページにて更新している。また、学校だより・学年だよりは毎月発行している。

## 【取組み内容】について

- ① 毎朝、こころの天気の入力など ICT 機器を身近に感じられるようにしていく。
- ② 教育 DX を推進し、業務の効率化を推進する。
- ③ 国語の授業と連携し、1年と3年は全員が授業内で図書館を利用した。また貸出冊数も増加している。
- ④ 学校ホームページ、学校だより、学年だより等を通じて情報発信を推進している。

### 今後への改善点

・重点

令和7年度 主体的・対話的・深い学びのある授業づくり（目標）

教科	各教科の目標
1 国語	・漢字の読み書きの能力を高め、基礎的な内容の定着をはかる。 ・言葉の意味や使い方を理解させることで国語力の向上をはかり、言語活動を通して、思考力、表現力を高める。
2 社会	・基礎的な知識、技能の定着を図り、言語活動や発表活動を通して思考力、判断力、表現力を醸成する。 ・ICT 機器を活用し、効果的・効率的な授業展開を工夫する。
3 数学	・基礎学力の定着させることに加え、ICTを活用した授業を展開し、数学的思考力を高める。 ・グループワーク等、数学的な言語活動を行い、数学的思考力や表現力を育む。
4 理科	・「思考・判断・表現」の能力向上のために、主体的な実験や観察の機会を多く設ける。 ・「主体的に学習に取り組む態度」を培うために、小テストや自主課題をおこない、計画的に学習する機会をつくる。 ・「知識・技能」の能力向上のために、記述式や応用の問題に取り組む時間を設ける。
5 音楽	・歌唱や器楽の基礎的な技能を身に着け、どの様に表現するのかを考え、意図をもって表現する力を高める。 ・鑑賞、歌唱、器楽、創作の全部の活動を通して、音楽を愛好する姿勢を培う。
6 美術	学習プリントやワークシートを用いた学習で、基礎的な知識・技能の定着を図る。鑑賞と表現を通して、創造の喜びを体験させる。
7 体育	・体育委員のリーダーシップを育み、生徒主体の授業を展開する。 ・一人一人の基礎体力を向上させる。 ・前向きに取り組み協力し合う集団を目指す。
8 技術・家庭	生活と技術についての基礎的な知識の習得のため、興味や関心を持ちやすい教材を用いて授業を展開する。各種実習や ICT 機器の活用により、より具体的で実践的な学びにつなげ、「生きる力」を育む。
9 英語	C-NET や ICT 機器の活用により、英語への関心を高め、4 技能(Listening, Reading, Speaking, Writing)の向上を図る。
10 道徳	・教材を理解し、人間としてのより良い生き方を考え、実践する態度を育てる。 ・他者の意見を聞く機会を設け、多様性を理解するとともに、自他の命を尊重して懸命に生きようとする実践意欲を高める。
11 特別支援学級	本人、保護者と共に個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成し、支援と指導を明確にしたうえでここに応じた目標設定・目標達成を目指す。自立活動を取り入れ、スマールステップを踏みながらできることを増やす。

重点		令和7年度 主体的・対話的・深い学びのある授業づくり	
	教科	経過達成状況	今後の問題点
1	国語	学習漢字ノート、ワークの活用、プリント教材の工夫、小テストを定期的に行うことで基礎的な内容の定着を図っている。各種コンクールへの応募やICT機器の活用等で興味関心を高めている。	引き続き基礎的な内容の定着を目指し、家庭学習の習慣をつけるための指導を続ける。作文、スピーチ、話し合い活動など表現力を高められるような取り組みも充実させていきたい。
2	社会	ICT機器を活用し、デジタル教科書やWEBコンテンツなどを授業に取り入れている。また、問題集やワークシートを活用し、基礎学力の定着を図っている。	資料を正しく読み取る力、自分の考えや意見を表現する力を持つための取り組みを継続的に行う必要がある。
3	数学	各学年の状況に応じて、ICTを活用した授業を展開したり、学習プリントを使用したり基礎的な計算力と数学的思考を問う問題に取り組んでいる。	基礎的な計算力は、段階的に向上しているが、数学的思考力を高めるためにさらに問題の精選や授業展開に取り組んでいく。
4	理科	各学年、より多くの実験・観察をおこなうことができた。また、基本問題だけでなく発展的な問題に取り組む時間をもつことができた。	実験の予想や、実験結果から法則を見出すなどの時間を取りたい。基礎の定着をはかりつつ、思考の観点の力もねばしたい。
5	音楽	・歌唱活動で発声練習をこまめに取り入れることで「美しい響き」「聴く力」について生徒の意識向上がみられる。引き続き活動を行い、表現力を培っていきたい。	・基礎的な歌唱技能が向上することで豊かな表現力を培うことができる。聴く力は鑑賞活動ともリンクさせながら向上させていきたい。
6	美術	学習プリントやワークシートを用いた学習で、基礎的な知識・技能の定着を図った。グループワークでの鑑賞や、様々な表現方法にも取り組んでいる。	ICT機器の活用により鑑賞方法や表現方法の幅を広げていきたい。また、制作後の個々の作品の鑑賞や展示する機会を増やし、創作意欲を引き出していく。
7	体育	基礎体力においては、準備運動等で行うトレーニングで向上を図っている。またグループワークを取り入れながら、生徒主体の授業を展開するよう取り組んでいる。また、ICT機器を活用し、主体的な学習も取り組んでいる。	継続的にリーダー育成に取り組み、生徒が主体となり積極的に取り組む授業を展開できるように努める。体育の授業だけでなく、日々の日常生活から責任感を持った行動をさせる。 ICT機器の具体的な使い方を指導していかなければならない。
8	技術・家庭	ICT機器や視覚教材を活用し、興味・関心の向上ならびに学習内容の定着を図っている。 各学年で実習を行い、「生きる力」を育むよう取り組んでいる。	引き続き教材の精選につとめ、実社会、実生活に根差した授業づくりに取り組む。基礎的な知識や技能の定着を図りつつ、生徒自身の思考による気づきや学びを重視したい。
9	英語	ペアワークやグループワークを通して対話的に学ぶ活動を行っている。また4技能の向上を図るべく、C-NETやデジタル教科書、学習者用端末を活用している。	興味関心を高める授業の工夫に努め、自分の考えを英語で表現する活動を多く取り入れていく。英語が苦手な生徒も英語で表現できるよう特にWritingの指導に工夫が必要である。ICTを活用し、子どもたちの学習を支援する。
10	道徳	各教材を通して、より良く生きるために考え、お互いに意見を共有することができた。各学年の取り組みに合わせて、前期は計画的に道徳の授業をすることができた。	3学年の評価基準を統一することができた。後期も道徳の授業数の確保をしたい。また、他者と意見を共有することから、多様性への理解を深めていくことが課題である。

1 1	特別支援学級	作成した個別の教育支援計画・個別の指導計画をもとに個々に応じた学びの場を選択し、授業や抽出授業での自立活動を通して、それぞれの課題や目標に日々チャレンジしている。	子ども自身が自らの課題を認識する。そのうえで自己肯定感を高めていけるような声かけ等の支援をし、個人の目標に向かってできることをさらに増やしていけるよう引き続き支援していきたい。
-----	--------	---	--